

上野「文化の杜」新構想推進会議・ワーキンググループ（第4回）議事メモ（案）

開催日時：平成26年3月13日（木）10：00～11：45

開催場所：東京藝術大学事務局第2会議室

出席者：辰野国立文化財機構理事、栗原国立文化財機構事務局長・（兼）東京国立博物館総務部長、小松国立西洋美術館副館長、折原国立科学博物館理事、小室東京都美術館副館長、桜庭東京文化会館副館長、鈴木上野の森美術館事務局長、関東京都生活文化局文化振興部部長、北郷東京藝術大学理事、畑中東京藝術大学理事・（兼）事務局長、平林文化庁政策課長

オブザーバー：杉村晶生東日本旅客鉄道（株）投資計画部次長

欠席者：五十嵐東京都建設局公園緑地部公園計画担当部長、関東京都生活文化局文化振興部部長、田辺台東区文化産業観光部長、大澤実紀東日本旅客鉄道（株）事業創造本部長（オブザーバー）

ヒアリング参加：茅野雅弘上野観光連盟事務総長、芦田尚子東京・春・音楽祭実行委員会事務局長

●議題

（議題1）前回の議事メモの確認について

座長から資料1に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

（議題2）上野「文化の杜」新構想の方向性（素案）について

共通の課題等に関して、各機関より提案の上意見交換を行った。各機関が考える課題及び具体策等は下記の通り。

座長から資料2に基づき説明後、上野「文化の杜」新構想の方向性に関して意見交換を行った。

なお、座長から事務局に対して本日の意見を踏まえ、資料2に関し、加筆修正するよう指示があった。

（主な意見）

- ・ 3,000万人の集客については、上野公園周辺の文化施設の各館入場者（有料＋無料）や上野公園でのイベント等で来客する方々を含めることで整理できないか。
その場合、外国人観光客を呼び寄せるためにも、日本各地の「祭り」を見せるイベントや生花・盆栽の展示の他、上野公園や不忍池を使った国際ビエンナーレや国際芸術の祭典のようなイベントを開催してはどうか。
- ・ 更に、国際化への環境整備として、クレジットカード支払いやスイカ、パスモを利用した入場方法の見直し、英語等多言語音声ガイドの普及、及び展示以上の深い情報や多言語化した情報を提供するためにも上野公園全体におけるフリーWi-Fiの整備に関して検討すべき。
- ・ ソフト面の強化を行うに当たり、NPOの設立など上野の杜の各施設をつなぐプラットフォームを

作ることがまず第一に必要である。

- ・ 休憩所や団体待合所、食堂等を有する「ここに来れば上野公園やその周辺の情報が全てわかる」といったコモン施設が必要ではないか。
- ・ ソフト面の検討事項の中に、高度学芸員などの「人材養成」を入れてほしい。

（議題3）上野地区関係団体のヒアリングについて

座長から標記について提案があり、「上野観光連盟」及び「東京・春・音楽祭実行委員会」から上野「文化の杜」新構想に係るご意見、ご期待、ご要望の他、広く上野公園地区との関わり等について、ヒアリング

（主な内容）

- ・ 上野公園とアメ横地区の回遊性を高めるため、アンダーパス化またはロータリー化等には賛成である。しかし、アンダーパス化またはロータリー化をして終わるのではなく、回遊性を高めた上で3000万人の観光客をどう安全に移動させるかをしっかり検討したい。他にも、パークトレインや動物園のモノレールなど、回遊性を高める方策には協力したい。
- ・ 民間活力を取り込むに当たり、公園内の広告規制が厳しく企業側のメリットが非常に少なくなっている。規制緩和の必要がある。
- ・ 各館に社会連携を専門に行う組織がなく、外部団体との連携を行う際は通常業務と並行して行うので、担当者の負担が大きくなってしまう。上野の杜としての窓口が一つあって、そこから振り分けるようにすると社会連携が行いやすいのではないか。
- ・ イベントの実施に当たり、協賛企業を募るにしても、大企業は「上野」に対する認識が薄い。もっと大がかりな企画を実施して大々的にアピールしていく必要がある。
- ・ 演奏会等の鑑賞後に飲食する場が乏しい。
- ・ 藝大生のアンテナショップや共同のミュージアムショップを上野商店街の方に作って連携したり、お互いのチラシを配り合う試みもっと出来ないか。
- ・ 花見マップなど、同じような印刷物がばらばらに存在している。これを統一することができれば、さらによりよいものを多く発行できるのではないか。

（議題4）今後の進め方について

座長より資料3に基づき説明があり、原案のとおり承認された。

なお、委員から本ワーキンググループに参加していない上野公園周辺の他の文化機関について、本ワーキンググループの進捗状況等についての情報共有の必要性に関して提案があった。